

信州大学大学史資料センターの設置とその活動

福島正樹（信州大学大学史資料センター）

はじめに

信州大学は、戦前に設立された7校に及ぶ前身学校の伝統をふまえ、昭和24年（1949）6月1日に発足し、平成31年（2019）で70周年を迎える。この年は同時に、大正8年（1919）に開学した旧制松本高等学校の100周年にもあたる。

そこで、信州大学は、「信州大学大学史資料センター（Shinshu University Archives）」（以下「大学史資料センター」と略す）を平成29年4月1日に設置し、周年記念事業の準備を進めるとともに、その過程で大学の歴史に関する資料の収集・整理、展示会の開催などを行い、これまで必ずしも十分な取り組みができなかった本学の歴史に関する資料の収集・整理・公開、調査研究等に取り組むこととした。

本稿は、大学史資料センターの目的と活動内容を紹介し、今後の課題、方向性について述べることにする。まず前提として、平成28年度に作成された設置構想についてふれておきたい。

1 大学史資料センター設置の構想

大学史資料センターの設立に際し、設置が承認された際（平成29年2月1日第410回役員会）に作成された資料（「信州大学大学史資料センター設置について」。以下設置構想と略称）に基づき、設置構想の概要を記す。

（1）設立趣旨

信州大学は、部局ごとに戦前からの異なる長い歴史を有し、戦後の昭和24年（1949年）に新制大学として統合されてからも、はや70周年を迎えようとしている。しかしながら、長い大学史における貴重な資料が、現状では廃棄・散逸の危機に瀕している。貴重資料を収集・整理・保存することが焦眉の急である。そのため、資料の収集・整理・保存をする機関を設立する。その各部局の資料はデジタル化したのち、バーチャルな信州大学大学史資料センターを通して、資料の公開を行う。

（2）業務概要

各部局の同窓会及び校友会との連携により、信州大学の歴史資料の体系的収集・整理・保存を行い、デジタルアーカイブズを構築する。構築後は、電子データによる公開、展示等の業務を行う。

(3) 原資料の所蔵・管理スペース

原資料の所蔵・管理は、各キャンパス・部局等で配慮する。

- ・松本キャンパス（人文学部・経法学部・理学部・全教構・医学部）：中央図書館、旧制高等学校記念館等
- ・上田キャンパス（繊維学部）：アーカイブ館の構想を推進する。
- ・長野キャンパス（教育学部・工学部）：検討する。
- ・伊那キャンパス（農学部）：検討する。

(4) タイムスケジュール

平成 28 年度：大学史資料センター設置準備

大学史資料の調査・収集・整理を開始する。

- ・繊維学部は、資料の収集・デジタルアーカイブズ化は終了している。

平成 29 年度：大学史資料センター設置

各部局の大学史資料の調査・収集・整理状況を把握し、今後のデジタルアーカイブズ化に向けたロードマップを作成する。

- ・人文学部・経法学部・理学部については、文理学部の歴史資料を含め調査・収集・整理し、デジタルアーカイブズ化を開始する。
- ・医学部、教育学部、工学部、農学部、全教構については、ロードマップに基づき、同窓会等との連携及び各部局の協力を仰ぎ、信州大学歴史資料の調査・収集・整理を推進し、デジタルアーカイブズ化を開始する。

平成 30 年度：大学史資料センター業務の推進

平成 29 年度事業の継続及び平成 31 年度記念事業等の準備

平成 31 年度：大学史資料の公開・展示

- ・信州大学創立 70 周年記念事業の一環として、各部局で整理した資料やデジタルアーカイブズの公開、展示の業務を開始する。

各部局の調査・収集・整理は終了するまで、引き続き継続していき、順次公開、展示の業務を開始する。

- ・大学史資料センターは、3 年間の活動を総括し、今後の展開と組織の在り方の見直しを検討する。

(5) 組織とスタッフ

大学史資料センターは、附属図書館に附置し、学術情報・図書館委員会のもとで運営にあたる。センター長は学術情報担当副学長・附属図書館長が兼務し、スタッフとして、特任教員及び技術補佐員・事務補佐員を配置する。

(6) 設置構想の特徴

以上が、平成 28 年度にまとめられた設置構想である。平成 31 年に信州大学 70 周年・旧制松本高等学校 100 周年を迎えることを契機に、これまで全学的視点から取り組まれることのなかった「信州大学アーカイブズ」を立ち上げ、やがて大きく育てるという展望のもとに設置されたものである。

この構想の特徴は、長野県内 4 地区にキャンパスが分散し、かつ歴史的経緯が異なり、独立性の強い学部によって構成されているという本学の特徴をふまえ、まずは資料の実物は各学部での保存を基本とし、大学史資料センターはそれら資料の所在情報と、デジタルデータを収集、整理、活用する、という点である。そして、平成 31 年度にはそれまでの活動の成果を踏まえ、その後の大学史資料センターの方向性を検討することになっている。

なお、大学史資料センターの大学内における位置づけについては、平成 29 年 4 月 1 日から施行された「信州大学附属図書館規程」(<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/regulations/act/frame/frame110000289.htm>) 及び「信州大学大学史資料センター規程」(<https://www.shinshu-u.ac.jp/guidance/regulations/act/frame/frame110001011.htm>) を参照いただきたい。

2 活動計画の策定と事業の推進

(1) 大学史資料センターの運営方針の決定

日本におけるいわゆる「大学アーカイブズ」は、その設立趣旨の違いから、1) 公文書館型、2) 年史編纂型、3) 創立者・創立経緯重視型、4) 同窓会対応型の 4 つに類型化できる(小池聖一「日本の大学アーカイブズー広島大学文書館を一例にー」(『アーカイブズ』48号 2012年))。この類型を念頭に、本学の大学史資料センターを位置づけると、設置構想においては「年史編纂型」を念頭に構想されたものと判断できる。

しかし、平成 31 年度までの 3 カ年計画の中では、出版物としての年史(記念誌)を編纂刊行する事業は組み込んでいない。すなわち、平成 31 年における信州大学創立 70 周年・旧制松本高校 100 周年記念事業を実施し、そのための関係資料の収集・整理・保存、展示、デジタルアーカイブズ化を進めることが目指されているのである。いずれかの時期に歴史叙述としての「年史」が必要になるであろうが、そのための基礎データの収集と調査研究、活用・公開に主たる役割が求められているのである。

そこで、センターが設置された 4 月当初に行ったことは、こうした設置の基本構想をふまえ、

本年度活動を開始するにあたり、実施業務を整理（どのような業務をどのような手順で実施するのかを整理し、計画を立案）し、平成31年度までの当面の事業内容とタイムスケジュールを別表1のとおり策定した。

中期目標・中期計画			第3期(平成28年度～平成33年度)					第4期(平成34年度～平成39年度)					第5期(平成40年度～平成45年度)			
資料群	事 例	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	平成32年度	平成33年度	平成34年度	平成35年度	平成36年度	平成37年度	平成38年度	平成39年度	平成40年度	平成41年度	平成42年度
収集アーカイブス	卒業生資料 卒業証書、ノート、大学祭パンフ、写真		収集開始	収集	収集・総括	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	教職員資料 学長資料、教職員資料		収集開始	収集	収集・総括	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	関係機関等資料 長野県立歴史館、旧制高等学校記念館ほか		収集開始	収集	収集・総括	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
	歴史資料系資料 30年程度を経過した大学行政文書等	準備期間	検討、収集開始	収集	収集・総括	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→	→
機関アーカイブス	広報資料 刊行物など		検討	検討	方針検討											
	行政文書(大学本部) 法人文書		検討	検討	方針検討											
	教育系文書(学部資料) 研究アーカイブス		検討	検討	方針検討											
					↑70周年 /100周年										↑80周年 /110周年	

(別表1) 信州大学大学史資料センターの事業計画

まず、信州大学アーカイブズとして取り組む事業を、「収集アーカイブズ」と「機関アーカイブズ」の大きく二つに区分し、平成31年度までの3カ年の重点は、「収集アーカイブズ」（卒業生資料、教職員資料、国・自治体等関係機関資料、歴史資料系資料）に置くこととし、「機関アーカイブズ」（大学組織によって生まれる公文書・法人文書等）に関しては、情報の収集や方針の検討を中心に行うこととし、本格的な取り組みは平成32年度以降の課題とした。

なお、資料収集等にあたっては、資料取扱い要綱を決める必要があるが、本年度については、試行錯誤が予想されることから、資料取扱い要綱（案）を作成し、資料の収集、整理、保存、公開・活用までを含む要綱の策定は次年度以降にすることとした。したがって、本年度は資料の一般に向けての閲覧・公開業務については、展示会を除き行わないこととした。

(2) 資料の収集・整理・保存の体制作り

<資料整理室>

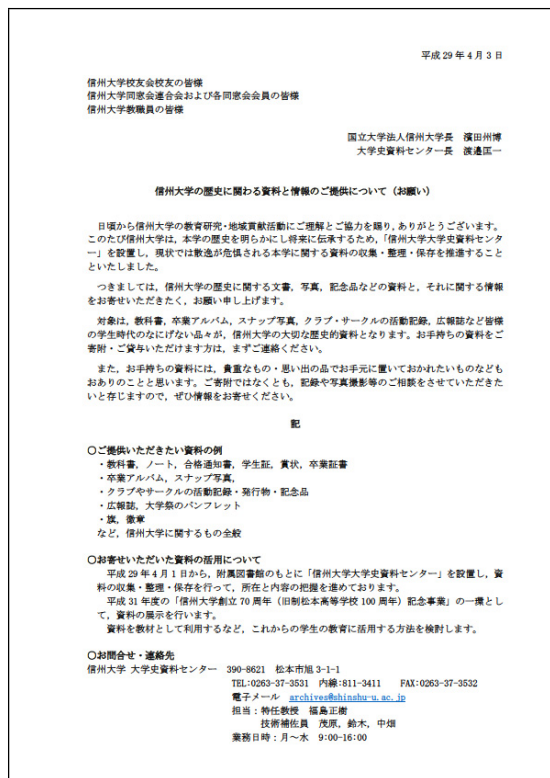
卒業生などの外部からの問い合わせの受付、資料の整理・保存の作業を行うために、経法学部

の一室を事務室兼資料整理室として確保し、月曜日から水曜日の9時～4時の間業務を行うこととした。今年度の体制は、センター長（学術情報担当副学長＝附属図書館長を兼務）、特任教員1人、技術補佐員3人、事務補佐員1人である。

<資料提供の呼び掛け>

収集アーカイブズで最初に取り掛かったのは、大学本部の研究推進部を通じて各学部の同窓会に依頼し、卒業生の持っている資料の提供を呼び掛けることであった。（資料1「信州大学の歴史に関わる資料と情報のご提供について（お願い）」）提供資料として想定したものは、そこに例示したように、いずれも主として学生生活に関わるものである。卒業生、職員向け資料提供の依頼状は、74,300通（平成29年12月31日現在）発送している。

なお、平成29年度後半からは、信州大学附属図書館と連携協定を結んでいる県内図書館を通じて資料提供の依頼状を図書館利用者に配布している。



資料1 資料提供の依頼文

<各部署等における資料の現状の把握>

次に、各学部長・図書館長あてに同趣旨の文書を送り、各学部で保管している各種資料についての情報提供を呼び掛け、必要に応じてセンター職員が出張し調査を行った。想定した資料としては、各学部に保管されている歴史資料としての公文書（法人文書）のほか、歴史的価値のある

文化遺産などである。

ちなみに、文化遺産については、平成 25 年度に広報課と附属図書館が中心になって『凛—信州「知の森」の文化資産』という冊子を発行し、各学部で所蔵する建造物 6 件、絵画・彫刻 32 件、書跡 16 件、典籍・古文書 16 件、歴史を語る品々 13 件、計 83 件を紹介している。今回は、こうした既知の資料はもちろん、それ以外の未だ所在の明確でない資料についても、可能な限り調査することとした。なお、附属図書館で保管する「旧制松本高等学校資料」についても、これまで整理がなされていないことから、その整理も並行して進めることとした。ただ、これら調査資料に関する情報の整理方法など、その取り扱いについては今後の課題である。

資料調査先		調査事項	結果	
信州大学	大学本部	総務課・経営企画課	信州大学創立に関する資料	設立に関する一連の文書の所在を確認
	大学本部	環境企画課	大学施設に関する建設、修繕関係資料	1949年～2005年までの大学施設の修理履歴
	人文学部	学務課	学部所蔵の資料	学部長室保管の思誠寮の瓦、思誠寮日誌、学生原簿等
	教育学部	図書館・同窓会	教育学部設立に関する資料	年史編纂に関する資料を確認
	理学部	理学部・自然科学館・同窓会	学部所蔵の資料	年史資料ほか
	医学部	図書館・同窓会	学部所蔵の資料	初代医学部長竹内松次郎作「官舎之記」、年史編纂に関する資料（写真）
	医学部	医学部資料室（五十連隊糧秣庫）	現状調査	建物を覆う蔦類の除去、煉瓦の補修必要
	医学部	部室（煉瓦造）	建築構造、建築時期、資料的価値	工学部建築学科に調査依頼
	工学部	総務課・学務課・同窓会	工学部設立等に関する資料	工学部創立期の資料（長野工業専門学校から工学部への移行期の文書群ほか）を確認
	農学部	図書館・同窓会・資料館	農学部設立に関する資料	農学部同窓会が保管
繊維学部	図書館・同窓会	上田蚕糸専門学校時代の書類等	主要資料のデジタルアーカイブを実施済み。明治44年からの備品台帳類の所在を確認	
松本市立博物館		松本高校、信州大学関係資料（写真等）	写真 2 1 点確認。	
長野県立歴史館		長野師範学校等信州大学に関係する資料	師範学校資料、松本高校設立意見書、信州大学設立時の関係資料など	
自衛隊松本駐屯地	資料館	五十連隊関係資料の有無	旧五十連隊門柱、「陸軍用地」石柱、	

表 1 平成 29 年度の資料調査の概要

（3）収集・整理・保存、活用等の実績

今年度、大学史資料センターで収集した実物資料の中心は、卒業生や旧教職員から提供（寄贈）された資料である。

<寄贈希望者へのヒアリングと寄贈のお願い>

資料収集の方法のひとつは、卒業生等からの資料の寄贈である。大学史資料センターに電話、

メール、FAX などにより問い合わせいただいた方に、どのような資料をご寄贈いただけるのかなどを伺い、問い合わせ票に記録し、可能な限り「寄贈」という方法での収集をお願いしている。

「資料をご寄贈いただくにあたって」（資料2）という文書に同意いただいた上で、資料寄贈申込書を提出いただき、受け入れの可否を判断、その結果を相手に連絡し、受け入れが決まった資料をお送りいただいている。

大学史資料センターがある松本キャンパスに近い卒業生、教職員のなかには、直接ご持参いただく方もあり、そういう場合は、在学・在職時の様子をうかがうよい機会ともなっている。

なお、系統的な取り組みにはなっていないが、教員OB、職員OBからの聞き取り調査も徐々に進めている。

平成 29 年 5 月 20 日
資料寄贈者各位
信州大学 大学史資料センター
資料をご寄贈いただくにあたって
<p>このたびは貴重な資料をご寄贈いただきまして、まことにありがとうございます。 ご寄贈いただきました資料は大切に保存し、下記のとおり取り扱わせていただきますので、ご了承ください。</p>
記
<ol style="list-style-type: none"> 1 ご寄贈いただきました資料は、信州大学大学史資料センターにおける調査研究、展示、普及公開等の事業に活用させていただきます。 2 取扱にあたりましては、個人情報の保護等に十分留意いたします。 3 ご寄贈いただいた資料に本学がすでに所蔵している図書等があった場合、ご相談の上、返却させていただくなど、受け入れができない場合がございます。 4 ご寄贈いただくに当たり、特約事項がございましたらお知らせください。
<p>〇お問合せ・連絡先 信州大学 大学史資料センター 390-8621 松本市旭 3-1-1 TEL.0263-37-3531 内線.811-3411 FAX.0263-37-3532 電子メール archives@shinshu-u.ac.jp 担当：特任教授 福島正樹 技術補佐員 茂原、鈴木、中畑 業務日時：月～水 9:00-16:00</p>

資料2 資料を寄贈していただくにあたって

<資料の整理・登録と写真撮影、受領書の送付>

お送りいただいた資料について、資料の名称と点数を確認し、その資料データをエクセル表に

登録し、あわせて資料寄贈者へ渡す受領書の作成と寄贈資料の写真撮影を行い、それを CD に収納し、受領書と一緒に返送している。

＜資料の保存＞

資料は基本的に 1 点ずつ中性紙の封筒に入れ、寄贈者ごとに中性紙の保存箱に入れて保管している。今年の時点で独立した収蔵施設は確保できていないので、大学史資料センター（資料整理室）の一角に置いている。一定の環境が保たれた収蔵スペースの確保が課題である。

＜資料収集の実績＞

今年度から収集作業を開始した。収集資料（寄贈）の点数は下記の通り。（平成 30 年 3 月 13 日現在）

- 卒業生 寄贈 47 件 資料点数 1,199 点、
- 教職員 寄贈 15 件 資料点数 181 点

＜WEB サイトの開設・収集資料のデジタル化準備＞

資料の整理作業を行いながら、写真撮影も実施している。また、大学史資料センターの WEB サイト（<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/about/archives.html>）を 8 月に立ち上げ、サイト内で資料収集の状況、収集した資料の写真（一部）の公開を 11 月から開始した。

＜展示・活用＞

平成 31 年度の記念事業のイベントとして、中央図書館の展示スペースを利用した展示会を企画し、その第 1 回大学史資料センター企画展「信州大学今昔（いまむかし）」を、平成 30 年 2 月 22 日（木）～3 月 19 日（月）、4 月 26 日（木）～5 月 14 日（月）の前期・後期に分けて計画し、原稿執筆している現在、前期展示を開催している。

～ 信州大学創立 70 周年・旧制松本高等学校 100 周年記念事業イベント～

第 1 回 信州大学史資料センター企画展

信州大学 今昔

信州大学は、戦前に設立された前身校の伝統を引き継ぎ、1949 年 6 月 1 日に開学しました。本展では、創立当時の姿がわかる資料や写真を展示し、現在までの大学の移り変わりなども紹介します。

2018 年 2 月 22 日（木）～ 3 月 19 日（月）
[2/25(日)、3/12(月)は休館]
月～金 8:45～17:00、土日祝 10:00～17:00

2018 年 4 月 26 日（木）～ 5 月 14 日（月）
[休館なし]
月～金 8:45～22:00、土日祝 10:00～19:00

場所 信州大学中央図書館 1 階展示コーナー
(松本キャンパス 松本市旭 3-1-1)

主催：信州大学附属図書館 信州大学史資料センター

お問い合わせ先：附属図書館 展示課 電話 026-277-2227 FAX 026-277-2232 E-mail: arch@lib.shinshu-u.ac.jp

信州大学は、戦前に設立された前身校 7 校の伝統を引き継ぎ、1949 年 6 月 1 日に発足しました。来る 2019 年は信州大学創立 70 周年の年になり、同時にこの年は旧制松本高等学校の 100 周年にもあたります。これを契機に 2017 年 4 月、信州大学史資料センターを立ち上げ、大学の歴史に関する貴重な資料の収集、整理、保存に努めるとともに、大学の歩みを展示等を通して紹介することとしました。今回はその第 1 回の企画展として、信州大学の成り立ちを、各学部が所蔵する特色ある資料を通して観覧したいと思います。

信州大学史資料センター

「信州大学は戦前創立された前身校 7 校の伝統を引き継ぎ、1949 年 6 月 1 日に発足しました。」

2018 年 2 月 22 日（木）～ 3 月 19 日（月）
2018 年 4 月 26 日（木）～ 5 月 14 日（月）

会場：信州大学中央図書館 1 階展示コーナー
（松本キャンパス 松本市旭 3-1-1）

主催：信州大学附属図書館 信州大学史資料センター

お問い合わせ先：附属図書館 展示課 電話 026-277-2227 FAX 026-277-2232 E-mail: arch@lib.shinshu-u.ac.jp

本格的なデジタルアーカイブズについては、その仕様も含め検討中である。デジタルアーカイブズのシステム構築の前提として、国立情報学研究所が機関リポジトリ用に開発した JAIRO Cloud の次世代版（研究データに対応）を活用したいと考えている。また、国際的なデジタルアーカイブズの規格「IIIF」等にも留意していきたい。

20170612

信州大学で公開されている大学所蔵資料のアーカイブズ（データベース）

1 中央図書館

(1) 近世日本山岳関係データベース（これ以外の小谷コレクションはPDF形式データ）
<http://www-moej.shinshu-u.ac.jp/>

(2) 水野コレクション
<http://www.shinshu-u.ac.jp/institution/library/find/mizuno-top.html>

(3) 松本女子師範学校郷土資料・多湖文書データベース（実験版）
<http://www-lib.shinshu-u.ac.jp/eddb/>

2 繊維学部図書館

(1) 信州大学繊維学部デジタルアーカイブ
<http://fiber.shinshu-u.ac.jp/tex-da/>

3 信州大学自然科学館（理学部）

(1) 植物、動物・剥製、岩石、化石、化学分野の標本
PDF形式のデータ

参考：信州大学のコレクション

中央図書館：

小谷コレクション
石井鶴三コレクション
北杜夫文庫
旧制松本高等学校蔵書
絵画
水野コレクション
松本女子師範学校郷土資料・多湖文書

繊維学部図書館：

織物見本帳
生糸商標（輸出用生糸・大正2年収集）
上田菫糸専門学校の教材（教材、啓蒙資料、掛図、模型、すごろく）
上田菫糸専門学校の歴史（記念絵葉書、初期の写真、上田菫糸専門学校一覧、
附属配置図、装束）
養蚕関係の図書・錦絵

各学部については情報収集中
同窓会及び同窓生・教員の資料も収集中

資料3 公開されている大学所蔵資料のアーカイブズ

(4) 調査研究

現時点で指摘できる若干の研究課題について述べておきたい。

<年表>

各学部等によって作成された年表データをエクセルデータとして集約した。今後の資料収集によってより豊かな年表として補充していくことになる。現在のところ作業途中である。

<記念誌（各学部）>

これまで各学部等が周年事業等として出版したものは以下のとおりである。学部単位のものは集約できるが、サークルや学生自治会などの活動を示す資料の収集については、今後の課題であ

る。

信州大学の年史（誌）事業	
○全学	
*	『信州大学施設部設置20周年記念誌 案書会創立35周年の歩み』（信州大学施設部、1985年）
*	『新たな創造と交流を目指して—信州大学創立50周年記念誌』（信州大学、1999年）
○人文・経法	
○教養	
*	『信州大学教養部十年史』（信州大学教養部、1977年）
*	『信州大学教養部二十年史』（信州大学教養部、1989年）
*	『信州大学教養部二十九年史』（信州大学教養部、1995年）
○教育：（除附属小中学校関係）	
*	『信州大学教育学部 九十年史』（信州大学教育学部創立九十周年記念会、1965年）
*	『字窓そして三十年 信州大学教育学部本校・松本分校・長野師範・長野青年師範一期生三十周年記念誌』（一期生三十周年記念誌委員会、1979年）
*	『信州大学教育学部三十年誌』（信州大学教育学部三十年誌刊行会、1982年）
*	『信州大学教育学部五十年誌』（信州大学教育学部五十年誌編纂部会、1999年）
○理学部	
*	『信州大学理学部二十年史資料』（1986年）
*	『信州大学理学部創立50周年記念誌』（信州大学理学部創立50周年記念事業記念誌編纂委員会、2016年）
○医学部	
*	『信州大学医学部二十五周年史』（信州大学医学部二十五周年記念会、1969年）
*	『信州大学医学部50周年史』（信州大学医学部創立50周年記念事業実行委員会、1994年）
・	『十年の歩み』（信州大学医学部附属衛生検査技師学校附属臨床検査技師学校閉校記念会、1976年）
*	『信州大学医療技術短期大学29年誌』（29年誌編纂委員会、2003年）
○工学部	
・	『機能高分子学科創立20周年・高分子工業研究施設創立30周年記念誌』（信州大学繊維学部機能高分子学科・高分子工業研究施設、1997年）
*	『信州大学工学部創立60年の歩み』（信州大学工学部創立60周年記念事業実行委員会、2010年）
○農学部	
・	『写真でつづる農学部60年史』（信州大学農学部60周年史記念事業実行委員会記念誌編纂委員会、2005年）
○繊維学部	
*	『信州大学繊維学部創立70周年記念誌』（千曲会、1980年）
・	『信州大学繊維学部繊維システム工学科創立七十五周年記念誌』（信州大学繊維学部繊維システム工学科創立七十五周年記念会、1994年）
*	『信州大学繊維学部創立100周年記念誌』（信州大学繊維学部内創立100周年記念誌編纂部会、2010年）
・	『信州大学繊維学部同窓会設立100周年記念誌』（同窓会設立100周年記念誌編纂委員会、2015年）

資料4 信州大学の年史（誌）編纂事業

なお、こうした年史編纂に用いた写真や資料の所在確認と保存については、その一部について調査を始めたが、多くは今後の課題である。

<資料所在情報の集約>

本年度から、各学部あて資料調査への情報提供のお願いを行い、一部について大学文書も含めた情報が集まってきているが（表1参照）、全学について系統的、網羅的な調査は今後の課題である。

<キャンパス敷地及び歴史的建造物、遺構の調査>

大学史に関する資料を収集することと、大学の歴史に関する研究は車の両輪である。どのような資料を集めるのか、現状集まっている資料以外にどのような資料が存在しているのかなど、調査研究は重要な位置を占める。

ここでは、大学の立地する地域の歴史との関係を考える上で、大学の敷地としての歴史に注目したい。

たとえば松本キャンパスは、その敷地は戦前の陸軍歩兵第五十連隊や松本衛戍病院（松本陸軍病院、戦後に国立松本病院）、長野県蚕業試験場、長野県蚕業取締所、長野県女子師範学校などとして存在した。とりわけ歩兵第五十連隊はその中心的施設で、現在のキャンパス内にその遺構をみることができる。現在は医学部資料室として使われている明治末年の建築になる「旧陸軍歩兵第五十連隊糧秣庫」は国の登録有形文化財に登録されている。

このほか、長野キャンパスの教育学部書庫（赤レンガ館）は明治 28 年建築の旧長野県庁書籍庫であり、上田キャンパスの繊維学部資料館は明治 44 年建築の旧上田蚕糸専門学校貯繭庫で、いずれも煉瓦造で国の登録有形文化財である。このほかにも、上田キャンパスの繊維学部講堂、繊維学部警務員室や、長野キャンパスの工学部武道場など貴重な建造物が残されている。ただ、平成 6 年まで所在した「旧陸軍歩兵第五十連隊包厨所」はグラウンド拡張のために解体されたことは非常に残念である。

今年度新たに、医学部の部室として使われている煉瓦造の建物について、工学部建築学科による調査を始めることにした。おそらく「旧陸軍歩兵第五十連隊魚菜庫」であった可能性がある。また、松本キャンパス内では「陸軍用地」と彫られた石柱が見つかった。旧五十連隊関係など、信州大学開学以前の遺構でいまだ認識されていないものがないのかなど、今後の調査が必要である。



写真 1 「陸軍用地」と彫られた石柱

<「信州大学」の名称について>

昭和 24 年、全国 69 の新制大学の一つとして「信州大学」がスタートした。ここで、信州大学が新制大学のなかで唯一旧国名を冠したものであることがこれまでも注目されてきた。では、昭和 24 年当時、大学名に「信州」を冠する事に異論は無かったのか。実は、この点について信州大学が開学した当初の教育学部本校・松本分校、長野師範学校、長野青年師範学校の第一期生が入学 30 周年を記念して編集発行した『学窓 そして三十年（信州大学教育学部本校・松本分校、

長野師範学校、長野青年師範学校一期生三十周年記念誌)』(同誌刊行委員会刊 昭和54年)が詳しく解明している。

それによると、信州大学設立の動きはすでに明治30年代の高等学校設置運動の中に胚胎していて、「信州大学」の名も、その使用は明治30年代にまでさかのぼること、大正8年の松本高等学校開学を契機に「信州大学」設置への運動が高まり、以後昭和戦前期まで一貫して「信州大学」の名でその設置への動きが続いていたことも明らかにしている。

昭和24年に開学した信州大学は、こうした長年にわたる運動のなかで誕生したと言え、したがって「信州」の名を冠することは言わば自明のことであったということができる。

なお、「長野」大学ではなく「信州」大学が明治以来、大学名の候補であった点については、すぐれて現代的な課題でもある「長野」と「信州」をめぐる地域意識の問題がある。信州大学の大学史の研究は、こうした地域史研究の課題とも結びついていることを忘れてはならないだろう。

(5) 記念事業に向けて

平成31年6月1日は、信州大学の創立70周年を迎える日で、その日に松本市民芸術館を会場に「信州大学創立70周年・旧制松本高等学校100周年記念事業」が行われる予定である。

そのなかで大学史資料センターは、「信州大学前史【旧制松本高等学校から信州大学文理学部へ】及び最近の取り組み」に関する映像制作や、旧制松本高等学校及び信州大学に関わる資料の展示会(実物展示、映像展示)を実施することになっている。今年度から来年度に向けて、映像シナリオや展示プランの策定を進める予定である。

おわりに一課題と展望

先にふれたように、本学の大学史資料センターは現状では、1)公文書館型、2)年史編纂型、3)創立者・創立経緯重視型、4)同窓会対応型の4つに類型のうち、敢えて言えば2)年史編纂型に属すであろう。この場合、「年史編纂」が果たされると事業は廃止ないし休止とされる例も多い。しかし、本学の蓄積してきた様々な歴史資料(大学文書を含む)を大学全体として保管し、後世に伝えていくためには、継続的な活動がなされる必要がある。大学史資料センターのあり方については、年史記念事業が実施される平成31年度に総括を踏まえた形で中長期の計画を策定することになるだろうが、ここでは、現時点で考えられる点について若干の考察を行っておきたいと思う。

信州大学はその設立の経緯もあり、8つの学部が5つのキャンパスに分散する、いわゆるタコ足大学である。さまざまな活動がそれぞれの学部の自主性、独立性のもとで行われてきた点こそが信州大学の特色を形作ってきたといえる。したがって、さまざまな歴史資料等についても各学部ごとに管理するという形をとってきた。今年度から発足した大学史資料センターも、この原則

のもとに活動を進めている。ただ、今後は資料の性格を考え、一定の保存環境のもとで管理すべきものは無いかなどについて検討が必要だと思われる。そのためには、大学の中長期の計画の中に大学アーカイブズのあり方を位置づけることが必要と思われる。

たとえば、現在の大学史資料センターの主たる使命は、卒業生や教職員 OB などの持っている大学関係資料の収集、各部局の持っている歴史資料の把握、データ化など、主として「収集アーカイブズ」（教科書、講義ノート、卒業証書、学生証、サークル活動資料、学生生活の写真、各種名簿・・・など）に属する業務を推進することである。

しかし、「公文書等の管理に関する法律」（平成 21 年 法律 66 号）が平成 23 年に施行され、そのなかで「独立行政法人等」の法人文書に由来する文書は、「特定歴史公文書等」として法律のとおり管理することになっており、本学における「機関アーカイブズ」、すなわち法人文書のアーカイブをいかに進めるか、そのために「国立公文書館等」への指定を目指すのかどうかなどが検討課題となっている。ただ各部局が所蔵する文書の中には、すでに保存期限が切れたものがあることから、それをどう扱うかは現実の問題として考える必要があると思われる。また、法人文書以外の大学発行資料（大学要覧、入学案内、規程集、職員録、シラバス、研究報告雑誌、広報誌等）の系統的収集や、教育資源・研究資源のアーカイブズ化など、体系的かつ系統的に検討する課題が残されている。

来る 2049 年、信州大学は開学 100 周年の節目を迎えることになる。大学史資料センターの当面の目標は 70 周年記念事業であるが、センターの活動を通じて、「信州大学 100 周年事業」、すなわち大学全体の年史刊行への展望を持ちたいと思う。そのためには、身近な資料をこつこつと集める「収集アーカイブズ」の仕事と、大学の存在そのものをアーカイブする「機関アーカイブズ」を両輪とする信州大学アーカイブズへの発展を展望したいと思う。